

殊眷乎、今茲先生六十有九、老而益壯、目明耳聰、行步不劣、壯者其壽所臻、何限、獨我儕資質卑薄、恐空其教意也、

內田先生曰、先生誘人之實、與諸生向道之意、一併發揮、真狀躍出、予甚愛此種之文、

春晚赴筑前途上遇雨

笠間 梧園

吉田利行曰、無限風趣

翰林寄跡得閑艱、却占風流客路間、細雨蕭々花欲盡、送春一日到萱關。

春日郊外

硯友會員 白河次郎

綠水紫山春意生、挑紅李白笑相迎、一群嬌女摘花去、蝴蝶輕々逐袖行。

田家四月

同 羽石 重雄

田家四月艷陽天、一路風溫犢欲眠、芳草萋々春萬頃、玻璃窗外綠如煙。

不忍池夜景

同 原 勇 六

笠間梧園曰、一讀不堪懷舊之情

平湖日暮淡霞流、画裡風光詩思幽、上野寺中鐘杳々、辨天祠畔水悠悠、殘荷處々眠鷗宿、凝碧重々素月浮、滴露瀾空涼意滿、孤鴻飛落荻蘆洲。

與熊本諸友小集

同 同

同人物外天、雅興鶴林仙、詩賦助琴瑟、唱歌醉管絃、芳園花在樹、明月影橫筵、忽憶家山集、群賓思慘然。

謁宮本武藏墓

同

隈本繁吉

兩刀妙術古今稀、仇恨報來意欲飛、毅魄茫茫呼不返、老松鬱處舊碑微、

湯之谷客舍夜來雨風甚

同

同

蘇岳雨風入夜頻、旅窓燭暗苦吟身、即今欲問熊城友、屈指埃余知幾人、

謁公木澁江翁

同

同

鞍岳之西菊川東、闔門忠節向南風、餘香猶在遜志塾、高德如山耳順翁、

尼法師

第二

晚霞仙

主の尼は端近き

障子をやら押し開けぬ

吹雪も今は早止みて

月の光に朦朧と

遠近方を眺むまば

雪かたわめる磯馴松

磯打波は春の花

其麗き景色をば

眺めやりつゝいとい猶

過ぎにしことの忍ばれて

獨り下せし袖の雨

はらひもあへず云へる機

妾は本は先帝に

御宮仕へ申せしが

名をば源典侍とて

呼ばれしものを源と

云ふも今早怨なれ

過ぎし壽永の秋の月

落つる涙に大内の

山もおぼろの夕霧に

花の都を後になし

野末にすたく虫の音も

尾花が末の風の音も

或は遙々き波の上に

飛こふ鷺も白旗と

只に心をいためつゝ

つらき月日を送りしが